

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス のこのこ		公表日		令和8年3月26日	
		チェック項目		工夫している点		課題や改善すべき点	
		はい	いいえ				
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		物の配置を工夫し体を動かせるスペースを確保している	児童人数や活動内容によっては狭さを感じることもあるが、今後も活動内容や人数に応じた環境の整備を実施していきます。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		常に職員の人数が利用児童の人数や特性に応じて余裕を持って配置されている	人数に余裕はあるが、指導力については今後も研修の参加や勉強会参加を通して研鑽していきます。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		2階への昇降が必要になる構造である為、子供たちには順番に昇降する等を伝え安全に過ごせるように配慮しています。	建物の構造上2階まで階段で昇降する必要があるが、昇降する人数を区切り安全については今後も配慮していきます。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	1	毎日の清掃に加え随時消毒を実施。おもちゃは整理整頓し遊びやすくする工夫をしています。	建物の老朽化に伴う修理が必要な箇所については迅速に対応できるようにします。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		クールダウンや児童が集団から離れたと感じた時に職員が付き添いながら別階の部屋で過ごせるようにしている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8		PDCAに基づいた資料がすぐに視られる所に置いてあり、記録表に活かせるようになっている。毎日の活動にのらひを持ち、児童の様子を共有している。	目標設定の根拠や振り返り内容を常勤・非常勤関係なく周知できるようにしていきます。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		評価表結果を閲覧できるようにしている。	評価表についての結果は閲覧できるようにしていますが、その内容を1年間通して業務改善につなげたいけるようにします。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		トラブルが起こった時は該当児童の課題や今後の対応について話し合ったりしている。活動案を出し合ったり相談することで課題や改善策を職員間で話し合うようにしている。	今は不定期開催という形で話し合いの機会を設けているが、今後は定期的に話し合いの場を設けるようにしていきます。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7	1	提携事業所と評価について話し合い、業務改善につなげている。	今後も業務提携事業所から第三者的意見やアドバイスをいただき、改善対策に努めていきます。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	1	研修参加や受講の為の環境は整えられている。	事業所内の必須研修の実施や、外部研修の参加を実施しているが、頻度は多く無い為、今後は研修開催の機会を多く持てるようにします。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8			支援プログラムはホームページに掲載。進級時に利用児童の保護者様向けに配布しています。今後も継続していきます。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8		半年に1回事業所内でアセスメントを行い、モニタリングを通して保護者様と話をし計画が作成されている。	事業所内でアセスメントを行い児童のニーズや課題について分析した結果を基にモニタリング実施。その上でサービス計画を作成いたします。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		職員間で活動の具体化、内容の検討を常時実施し児童のニーズに沿った計画を立てている	子供の支援に携わる職員については常勤・非常勤関係なくアセスメントに参加して検討します。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		毎日の記録の記載、口頭でも伝え合うことができている	計画は個別ファイルに保管し、職員は誰でも閲覧確認できるようにする事で共有できるようにしています。その上で今後も適切な支援ができるようにしていきます。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	2	概ね行っている	本人の状況や保護者、学校の先生や相談員、他事業所の情報等からアセスメントし確認するようにしていきます。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		5領域に基づいた支援内容になるような計画を作成している。その中には地域連携や家族支援などを入れた計画にしている	5領域を踏まえた本人支援はもちろん、家庭や学校、そのお子さんに関する福祉事業所とも連携を図りながら支援ができるような計画作成に努めます。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		担当者によるプログラムの立案をおこない行っている。	担当者が立案したプログラムを基に、スタッフミーティングを開催し活用していけるようにします。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		「制作」「工作」「ゲーム」「音楽療育」「運動療育」等のプログラムを満遍なく経験してもらえよう工夫しています。	色々な遊びを通して、経験を積んでもらえるようなプログラムを考えていきます。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8		子供の特性や季節に応じた個別活動、又集団療育を組み合わせている。	基本的に皆と一緒に遊ぶ遊びを通して集団療育をおこなっていますが、個々の特性に合わせた個別の対応ができるような計画を立案・支援を行えるようにしていきます。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		必ずとは言い方が活動前にはミーティングを行う等連携できるようにしている。	支援開始前のミーティングを定期的実施するようにし支援内容の確認、情報の共有が行えるようにしていきます。	

	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	3	概ねおこなえている。	支援内容を検討できるよう、支援終了後にミーティングが行えるようにしていきます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		個々に計画添った支援ができたかどうか記録の記載をおこなっている。	記録の記載を基に適切な見直しを行えるよう検証の機会を設けるようにしていきます。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		半年に一度モニタリングを実施しています。	保護者様に来所してもらいモニタリングを実施し計画の見直しが継続できるようにしていきます。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	8		クッキングの機会、外出、制作・工作活動、運動・音楽活動を通して楽しいと思ってもらえるような支援をおこなっています。	地域交流についてはどのような形で実施するか検討していきます。
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8		「ごっこ遊び」要素をいれた活動等において生活における決定や選択する機会を設けることで自己決定を促しています。	個々の特性に添った選択肢やルールに則った選択ができるようになる支援方法を検討していきたい。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		基本的には児童発達管理責任者の参加としている。	可能ならば児童発達管理責任者以外の職員も状況を理解しそういった機会に参画できるようにしていきます。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8		障害福祉関係とは情報共有、連携を取る機会が増えている。同法人内の訪問看護に医療連携という形で連携を図っている。学校とは送迎時に情報共有するようになっている。	児童に関わる関係機関と連携が図れるように努めていきます。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8		送迎時に担任と情報共有をおこなっている。	送迎時の情報共有を主に今後も学校との情報共有に努めていきます。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	1	7	事業連携している法人内の児童発達支援事業所とはしっかりした情報共有と相互理解ができていますが、その他の事業所とは情報共有できていない状況である。	小学校入学時に就学前情報として申し送りを受ける等情報共有ができるように検討していきます。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	1	7	現在小・中学生の児童のみの在籍で、まだ障害福祉サービスへ移行する対象児童がいない。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	6	児童発達支援センターとは連携していない。	地域支援センターとの連携については地域課題だと考えます。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	8		放課後等デイサービス（他事業所）とは年に数回交流の機会を設けているが、児童館との交流はできていない。	交流の方法について検討していきます。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	5	参加できてない。	要請があれば積極的に参加していくようになります。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		日々の送迎時にはその日の様子をお伝えしています。又半年に1回のモニタリングでは家庭や学校での様子も聞きながらゆっくり共通理解できるようにしています。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	4	家族が何でも相談できるようにツールの整備等は行っているが、ペアレントトレーニングや研修の実施はできていない。	家族によって相談を希望された場合はもちろん、希望はされていないが必要だと判断した場合は連絡を多くとるなどしていきます。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		契約時に説明するようにしています。	今後も継続します。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		契約における面談などで意向を伺う、その後はモニタリング時に伺い確認するようにしている。	今後も継続します。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8		計画を説明し同意を得ています。	今後も継続します。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		家族が何でも相談できるようにツールの整備等は行っているが、ペアレントトレーニングや研修の実施はできていない。	相談ごとによっては面談の機会をゆっくり持ちお話を伺えるようにしていきます。また相談内容に応じて連携機関とも連携し必要な支援を提供できるように努めていきます。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		8	現在家族同士で交流する機会を設けていない。	開催方法等、検討しながら前向きに検討いたします。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		保護者からの意見は普段から聞くようにしています。何か要望を持った場合はできるだけ迅速に状況を把握し、できる限りの対応をさせていただいてます。	今後も継続します。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8		HPを通して日々の活動の様子を発信するようにしています。また月間活動予定表を配布し、活動を把握していただけるようにしています。	今後も継続します。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		個人情報の取り扱いについては、職員には個人情報取り扱いに関する同意書を取り交わしています。	個人情報の取り扱いに関する同意書の取り交わしの継続と共に、個人情報の取り扱い方法について定期的に確認し合う場を設けます。

	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		保護者との情報のやり取りは行っています。意思表示が難しいお子さん等には絵や写真カードを活用する等して思いを汲み取るようにしています。	今後も継続します。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		8	地域の方を招待するような行事は行っていない	現状は実施するには諸々課題も多く難しいと思いますが、検討は重ねていきます。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8		マニュアルは職員がいつでも目を通しやすい所に設置しています。訓練については半年に1度活動中で子供達も一緒に行っています。	事業所内でマニュアルの整備、各種訓練の実施はしていますが、保護者への周知ができていないので、積極的に発信していくようにします。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		BCPの策定はできている。BCP内容を読み合わせする等、職員の中で周知するようにしているが、備蓄は完全ではない。	備蓄品の準備等、災害に備えての準備を積極的に行っていきます。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	8		契約時やモニタリング時に症状の出現状況及び服薬状況を確認しています。	今後も継続します。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	5	現在アレルギーの有無についての保護者への確認、また状況・対応については何っているが、主治医の指示書が出てそれに基づく対応が必要な児童はいない。	保護者への聞き取りは定期的に継続します。主治医の指示書に基づく対応が必要な場合も職員間で情報を共有しながら対応できるようにします。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		安全計画は作成し定期的に訓練の実施をしています。	今後も継続します。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	2	6	安全確保の取り組みについて事業所内でのみになっており、保護者への周知はできていない。	何らかの形で安全計画が作成されていること、取り組み内容を周知していきようにします。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		ヒヤリハット事例発生時にはヒヤリハット報告書を作成し、全体会議時事例検討している。	今後も継続します。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		半年に1度虐待防止研修を実施している	今後も継続します。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8		モニタリング時に説明、個別支援計画書と共に身体拘束の同意書も記載し同意サイン頂いています。	今後も継続します。